

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) こども家庭支援の心理学	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 鈴木 崇弘	当該科目に関する実務経験 臨床心理士 学校カウンセラー
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・人間の生涯発達及び、乳幼児期の初期経験の重要性を理解する。 ・子どもの精神保健と現状及び、子ども家庭福祉に要する心理学的知識や家庭の意義と機能・子育てを取り巻く社会状況を理解する。 [授業全体の内容の概要] ・生涯発達及び、家族や家庭の意義と機能、現代の社会状況の中での子育て家庭の現状と課題を包括的な理解と援助に要する専門的な知識を習得する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解できる。 2 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する 3 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解できる。 4 子どもの精神保健とその課題について理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 対人的な関わりと子どもの発達 基本的信頼感の発達① 2. 対人的な関わりと子どもの発達 基本的信頼感の発達② 3. 対人的な関わりと子どもの発達 対人関係の発達① 4. 対人的な関わりと子どもの発達 対人関係の発達② 5. 対人的な関わりと子どもの発達 道徳的判断の発達 6. 生涯発達を見据えた発達支援 生涯発達と発達支援 7. 生涯発達を見据えた発達支援 周産期の発達課題と支援① 8. 生涯発達を見据えた発達支援 周産期の発達課題と支援② 9. 生涯発達を見据えた発達支援 学童期・青年期の発達課題と支援 10. 家族・家庭の理解 家族・家庭の意義と機能、親子関係・家族関係の理解、親としての育ち 11. 子育て家庭に関する現状と課題 子育てを取り巻く社会的状況、ライフコースと仕事と子育て 12. 子育て家庭に関する現状と課題 多様な家庭とその理解、特別な配慮を要する家庭 13. 子どもの精神保健とその課題 子どもの生活・生育環境とその影響 14. 子どもの精神保健とその課題 子どもの心の健康に関わる問題 15. 期末試験			
[使用テキスト・参考文献] MINERVA はじめて学ぶ子どもの福祉 7 保育の心理学 (伊藤 篤 編著/ミネルヴァ書房)			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			